

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

「身近にある税金」

町田市立鶴川第二中学校 3学年 丹下 湖遥

本が好きな私は本をよく読むため、図書館を沢山使っていました。図書館には沢山本が立ち並んであります。しかし、私は図書館でお金を使ったことはありません。では何故、図書館は本を多く持っているのでしょうか。

最初に図書館には法律で「図書館無料の原則」というものがあり、内容は図書館の入館料や、図書館の資料を使う中でお金を要求してはいけないということです。その為私たちは図書館に直接お金を払うことはありません。

それでは図書館で使われるお金はどこから賄われているのでしょうか。図書館の資料や従業員、図書館で使われている机や椅子、その他諸々も私たちの税金が使われています。税金が使われるものは「自分たちの暮らしを豊かにする」ことが原則です。図書館は、どんな人も勉強できる、学べる、知れる空間を作るために使われています。もともと図書館は有料でした。それが変わったのは昭和初期の頃、主権が天皇から国民にかわったことで私たち国民の権利が強くなったからです。国民の意見が反映されるようになり、このような空間を求められるようになり図書館が無料になりました。図書館は必要あるのか、図書館に使う税金を他の事で役立てた方がいいのでは、と考える人を偶に見ますが、図書館は知見や自分の世界観を広げ、この先の未来を豊かにしてくれる空間です。税金は国のお金であり、国民のために使われています。税金の使い方に違和感あったとしても、何かのために使われていること、それによって助かっている人がいることも確かにいます。

それは図書館の本などの物だけではなく、病気を患ってしまった人、災害の被害にあってしまった人などの支援や問題解決、警察官や防衛隊の資金や国を動かすために使われているお金も税金で賄われています。おかげで命の危機に瀕した時はお金を気にせずに援助を頼めます。私たちが払っている税金は私たちの周りにあるものに沢山使われているのです。

これらを知って、税金は私たちができる道を広めてくれるものだと再認識できました。お金がかかるからできない、やらないなんてことにならない様に作られています。税金は私たちの生活では自分の首を絞める枷のように感じてしまう節があります。が、そのお金で私たちの生活の水準が上がっています。生きやすくしてくれています。これは今回税金の事について調べ、考えたから気付きました。何でこんなものがあるのだろうと疑問に感じたら、そのことについて調べて考えることも必要なのだと気付きました。